

春山気象

2009/01/13

文責・長谷川

概要

春山の大きな特徴としては、移動性高気圧、メイストームがあげられる。
寒冷前線が日本を通過した後は、風向きや気温が急変し、冬型の天候になる。
つまり、春山の天候は短い期間で大きく変化してしまう。
また、ふもとが暖かいといっても、山ではまだまだ冬のような気候であることもあるので、防寒対策は必須。

移動性高気圧

移動性高気圧とは、温帯低気圧間を、低気圧とともに移動していく高気圧のことである。
日本でみられる移動性高気圧は揚子江高気圧の一部が分離して移動しているものであるため、最初は寒冷であるが、温暖な海流によって暖められる。
移動性高気圧の中心から前面では天気は良いが、中心が通過すると薄雲に覆われ始め、後方の低気圧の接近とともに天気は悪くなる。

メイストーム

日本海や北日本で発達し、広い範囲で天気を急激に変え、海や山を大荒れにする低気圧のこと。
1954年5月に大海難事件を発生させた低気圧から命名されている。

高気圧の経路

上にあげたように、春の高気圧は移動する。

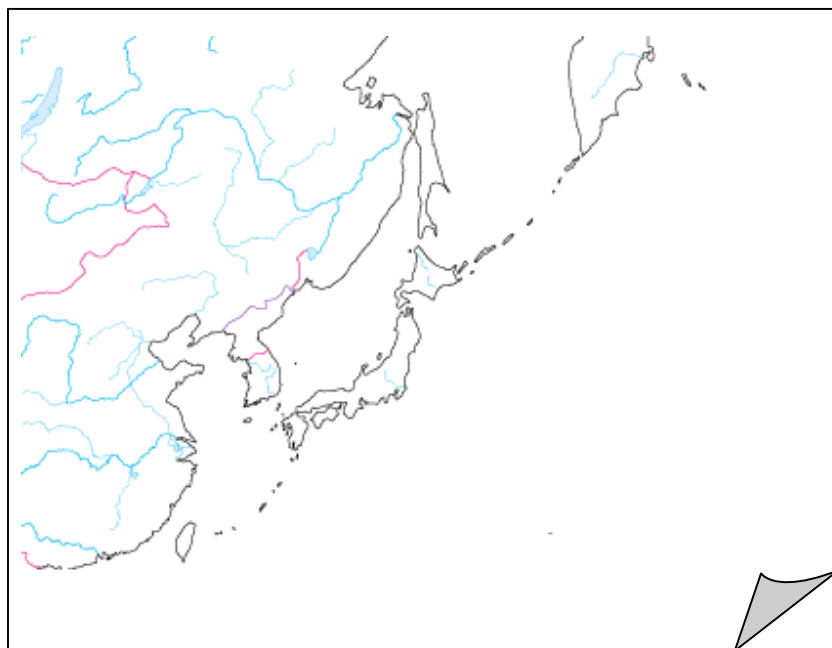
そのため、高気圧の経路について述べる。

高気圧の経路にはおもに4種類ある。

- ① オホーツク海コース
 - ・オホーツク海方面に現れて、ゆっくり南に移動。
 - ・関東から北の太平洋側で天気がぐずつく。
- ② 北方コース
 - ・大陸から日本海を経て、北日本を通る。
 - ・北日本は晴れ、東西日本は曇りや雨の多い天気となる。
- ③ 本州横断コース
 - ・本州の真上を通る。
 - ・全国的には晴れるが、晴天は長続きしない。
- ④ 南方コース

- ・日本の南岸を通る。
- ・各地で晴天が長続きし、高気圧からの南風によって、気温が上がる。

このように、高気圧の経路によって、各地の天気の良し悪し、持続が変わってくるため、天気図を書くときには、参考にしてもらえたらいいと思います。



高気圧の経路パターン